

保 育 科

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
SWE-5-M-3	子ども家庭支援論	桑原徹也	2	講義	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	ソーシャルワークの理念・原則・方法を解説する。また、和歌山を中心とした子育て支援の取り組みを紹介し、子どもとその家庭への支援について、事例をもとにワークシートを活用し理解を深める。 【子育て支援、ソーシャルワーク、権利擁護、社会資源、ネットワーク】						
実務経験と教授内容	児童福祉施設での勤務経験を有する教員が、その経験を活かして、子育て支援の理念とその実践を教授する。			アクティブラーニング	ディスカッション		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	子ども家庭支援の必要性を理解し、場面に応じた対応ができる。					
○	技能・表現	対象者を理解し、尊厳を持った態度を修得できている。					
△	思考・判断	ニーズに応じた支援の展開について自分の考えを持つことができる。					
△	態度・志向	保育者としての責任を持ち、支援に取り組む姿勢が身についている。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	子どもと家庭を取り巻く現状と課題		8	事例分析(1) ～家族関係の捉え方～			
2	保育とソーシャルワーク		9	事例分析(2) ～発達が気になる子～			
3	対象理解の仕方		10	事例分析(3) ～子ども虐待の対応～			
4	援助者としての基本的態度		11	事例分析(4) ～入所施設での支援～			
5	アセスメントツールの活用と方法		12	事例分析(5) ～記録の書き方～			
6	実践アプローチと技術		13	事例分析(6) ～プライバシーへの配慮～			
7	計画・記録・評価の方法		14	事例分析(7) ～関係機関・多職種との連携～			
評価方法と基準	評価方法	領 域	評価の観点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	場面ごとに適切な対応方法を選択・判断できるか				45%
		思考・判断	課題を理解し、ニーズに応じた意見を述べることができるか				10%
	課 題	技能・表現	対象者とその家族の想いを理解する姿勢が身についているか				35%
平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	特になし(プリントを配付する)						
参考書	保育所保育指針						
課題・試験等のフィードバック	毎回の課題は次回の授業でコメントと共に返却する。 定期試験終了後、模範解答を配付する。						
予習・復習の内容と時間	予習:配付プリントの次回授業範囲を読み、分からない言葉を調べておく。120分 復習:授業内容を振り返り、ワークシートを見直しておく。120分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	毎週金曜日 昼休憩時間 桑原研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EPS-5-M-3	子ども家庭支援の心理学	森定美也子	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	生涯発達の観点から乳幼児期から高齢期に至るまでの心身の発達と、それを支える家庭、保育園等の保育施設の在り方について、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を学ぶ。 【乳幼児 生涯発達 保護者支援】						
実務経験と教授内容	保育所の巡回相談や保健所の発達相談の経験を有する教員が、事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの発達について理解し、その対応方法を身につける。						
○ 知識・理解	職場や地域の人々と良好な人間関係を作ることができる。						
△ 思考・判断	論理的な思考を用いて子どもや子育てを巡る問題に取り組む。						
△ 思考・判断	子どもや保護者の心に寄り添った保育を実践できる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	生涯発達心理学 1：乳幼児期から学童期前期にかけての発達について学習する。			8	子育て家庭の現状と課題 2：ライフコースと仕事・子育てについて学ぶ。		
2	生涯発達心理学 2：学童期後期から青年期にかけての発達について学習する。			9	子育て家庭の現状と課題 3：多様な家庭とその理解について学習する。		
3	生涯発達心理学 3：成人期・老年期における発達について学習する。			10	子育て家庭の現状と課題 4：特別な配慮を要する家庭への対応を学ぶ。		
4	精神保健とその課題 1：保護者の心の健康にかかわる問題について学ぶ。			11	家族を取り巻く社会状況 1：虐待の種類と原因について、具体的な例を交えて学習する。		
5	精神保健とその課題 2：子どもの心の健康にかかわる問題について学ぶ。			12	家族を取り巻く社会状況 2：虐待を発見するためのチェックポイントについて学習する。		
6	家族・家庭の理解：子育て経験と親としての育ちについて学習する。			13	家族援助の実際 保護者面接のポイントについて学ぶ。		
7	子育て家庭の現状と課題 1：少子化など子育てを取り巻く社会的状況について学習する。			14	まとめ		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	心の基礎や各発達段階の課題について理解しているか				50%
		知識・理解	乳幼児の心理について理解できているか				30%
	期末試験	思考・判断	子育て家庭の問題について理解し、保護者への対応が身についているか				10%
課題	思考・判断	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	「子ども家庭支援の心理学」青木 紀久代 編 みらい						
参考書	「抱きしめてあげて 育てなおしの子育て」渡辺久子著 太陽出版						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習として次回の課題部分の教科書を読む。60 分 復習として授業ノートとプリントを見直す。180 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱを履修していること						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
CPS-5-M-3	幼児理解と教育相談支援	大道えりつ	2	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	この授業では、幼児を理解するために必要な知識や方法を理解し、事例や映像によるカンファレンスを通じて、幼児の実態から保育を構想し、実践する術について学ぶ。さらに、幼児教育現場において、幼児や保護者が様々な悩みや課題を抱えており、その課題への対応方法についても学び、適切な援助・支援の方途について体得する。【幼児理解、教育相談、保護者対応】						
実務経験と教授内容	ブリススクールや児童発達支援事業所での勤務経験を有する教員が、その経験を活かして、幼児理解や教育相談について講義する。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	幼児を理解するために必要な知識や方法を理解する。						
○ 技能・表現	観察や記録から幼児の発達状況を読み取り、適切な援助方法について提案分析できる。						
△ 知識・理解	教育相談の理論や技法について理解する。						
△ 思考・判断	幼児のつまずきや保護者の悩みやその対応方法について考察することができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	幼児を理解するとは: 幼児教育に求められる幼児理解の概観を論じ、本講義の流れを解説する。	8	映像によるカンファレンス: 事例検討を通じて、幼児の気持ちや援助方法についての理解を深める。				
2	幼児理解の理論(1): 発達心理学の諸理論や子どもの認知過程を解説する。	9	教育相談とは: 教育相談の意義、定義、進め方について解説する。				
3	幼児理解の理論(2): 遊びや仲間関係の発達に関する理論を解説する。	10	教育相談の理論と方法: カウンセリングの基本的理論や技法について解説し、技法の実践を行う。				
4	幼児教育と幼児理解: 幼児理解のあり方を、幼児教育の特質(養護と教育の一体化)と関連して論じる。	11	教育相談と支援の実際: 幼児の発達段階や課題に応じた教育相談を実践例とともに論じる。				
5	幼児理解の方法: 観察、面接、ならびに、記録やその読み取り/書き方について解説する。	12	保護者との連携: 発達が気になる子どもとその保護者への支援について、実践例とともに論じる。				
6	幼児理解と評価: 事例を通じて、評価を行う時の基本的考えや方法について論じる。	13	園内外の連携: 地域で活用できる専門機関や連携について、実践例とともに論じる。				
7	幼児のつまずきの理解とその対応: 年齢ごとの「つまずき」を理解し、その対応について解説する。	14	幼児教育の今日の課題: 幼児教育現場と小学校教育の接続の実際と課題について論じる。				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	幼児を理解するために必要な知識や方法を理解しているか 教育相談の理論や技法について理解しているか				50%
	課題	技能・表現	レポートにおいて、提示された事例に応じて幼児の発達状況に応じて支援の分析や考察ができるか				30%
	平常点	思考・判断	グループワークなど話し合いの場面において、課題の分析や提案ができるか				10%
教科書	『生徒指導提要』 文部科学省 教育図書 『幼児理解に基づいた評価』 文部科学省 チャイルド本社						
参考書	『幼児理解の理論と方法』 神長 美津子 他 光生館 『保育・教育相談支援 子育て、子育てを支える』 太田光洋 編著 建帛社						
課題・試験等のフィードバック	感想文や課題は次回の授業でコメントをつけて返却する。 グループワークで話し合った内容を印刷・配付などしてクラスに紹介する。						
予習・復習の内容と時間	予習: 指定した教科書や参考資料を事前に読んでおくこと。60 分 復習: 授業終了時に示す課題について感想文やレポートを作成すること。180 分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	履修にあたっては事前に「保育の心理学Ⅰ」「保育の心理学Ⅱ」の受講が望ましい。						
オフィスアワー等	質問や相談のアポイントメントは授業終了後に受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
CDH-5-M-3	子どもの食と栄養	藤澤祥子	2	演習	保育	通年 (前期)	必修
授業の概要と キーワード	基礎的な栄養学を理解する。時代と共に変化しつつある和歌山を中心とした食生活の現状と問題点を正しく理解する。保育所・幼稚園において食生活改善のために具体的な教材展開を身につける。食育の実践的な指導方法を修得する。【基礎栄養学、食育、教材】						
実務経験と 教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	子どもの発達を理解し、年齢に応じた食育を習得する。					
○	技能・表現	指導計画及び媒体づくりを通して、基本的食習慣の確立させる能力を身につける。					
△	知識・理解	乳幼児と保護者がかかえる現状を理解し、解決方法を見いだすことができる。					
△	思考・判断	子どもが楽しい食生活を送れるための食卓づくりのリーダーシップを発揮できる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	子どもの食と栄養の意義 子どもの栄養の特徴について			8	食生活指針について		
2	発育発達の基本的理解と保育士の役割(個人差について)			9	食育と食育基本法 食育とは何か、保育所に求められるものは何か		
3	自分自身の食生活評価 自己診断と自己評価(スケッチ法と簡易調査)			10	食育基本法がつくられた理由 食の問題点と理由について考える		
4	食事バランスガイド I 内容説明と使用方法について			11	乳児期の栄養と食生活 母乳の重要性について		
5	食事バランスガイド II 実際に自分の診断をしてみる			12	調乳・離乳食について		
6	栄養と食事の基礎知識 I 三大熱量素と食材について(食品群)			13	調乳方法と市販のベビーフードの試食を試み、テクスチャーについて学ぶ(実習)		
7	栄養と食事の基礎知識 II ビタミン・無機質(ミネラル)と食材について			14	離乳食立案 離乳開始から完了期まで立案		

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
CDH-5-M-3	子どもの食と栄養	藤澤祥子	2	演習	保育	通年 (後期)	必修
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
15	食事と間食の関係	22	学童期・思春期の栄養と食生活 現状から問題点について考え望ましい食育を学ぶ				
16	手づくり離乳食 離乳開始から完了期までの実習と試食	23	病気のときの栄養と食生活 子どもの疾病の特徴を知る				
17	幼児期の栄養と食生活 現状と問題点について考え望ましい食育を学ぶ	24	特別な配慮を要する子どもの食事と食生活(摂食機能を取りあげる)				
18	バランスあるメニュー立案 幼児のお弁当メニューを絵による献立作成から出発	25	食育アドバイスの具体例 保育所及び家庭における事例について				
19	手づくりお弁当のレシピづくり 食材は地産地消を主とする	26	役割分担をして Roleplaying 立案した幼児のお弁当を教材として				
20	手づくりのお弁当の栄養評価(成分表使用) 各家庭で調理したお弁当の栄養計算	27	教材の紹介 指導者が食育活動に使用している教材等				
21	給食時の指導計画立案(行事食) 手づくり弁当を教材として指導内容を考える	28	まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	栄養学上の観点から年齢に応じた発育・発達・食育を理解しているか 乳幼児と保護者が抱える現状に適切な対処ができるか				60% 10%
	課題	技能・表現	基底的食習慣の確立にむけて指導計画ができるか				20%
	平常点	思考・判断	子どもの楽しい食生活づくりを積極的に学ぼうとしているか				10%
教科書	「発育期の子どもの食生活と栄養」 菅原園他 学建書院 「使い方からやさしくガイド はじめての食品成分表」 香川明夫監修 女子栄養大学出版部						
参考書	「保育所の食事を通して食育を」 新藤由喜子他 学建書院						
課題・試験等のフィードバック	期末試験終了後に模範解答を配付する						
予習・復習の内容と時間	予習:指定した教科書のページを事前に読んでおくこと。120分 復習:本学の授業ノートを見直す。120分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
SWE-5-M-3	障害児保育	森定美也子	2	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	様々な障害について理解を深めながら、障害を抱える子どもが健やかに成長していくための保育現場における生活環境の在り方と保育者の役割、和歌山の状況について修得する。 【乳幼児、発達段階、発達障害】						
実務経験と教授内容	保育所の巡回相談や保健所の発達相談の経験を有する教員が、事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	障害児と周囲の子どもが共に成長していける指導法を身につける。						
○ 技能・表現	障害児の特徴について理解し、その対応方法を身につける。						
△ 技能・表現	障害児やその保護者の心に共感し、環境を整えることができる。						
△ 思考・判断	論理的な思考を用いて障害児を巡る問題に取り組む。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	自閉症スペクトラム障害について 1 自閉症の特徴について視覚教材で学習する。	8	障害のある子どもの園生活の特徴 遠城寺式発達検査法を用いて児童の特徴を学ぶ。				
2	自閉症スペクトラム障害について 2 自閉症の対応について視覚教材で学習する。	9	乳幼児期の発達課題と障害特性 検査を通して障害特性について学ぶ。				
3	自閉症スペクトラム障害について 3 軽度の自閉症の特徴について学習する。	10	乳幼児期の運動発達と基本的習慣の障害特性 障害児の基本的習慣の特徴について学ぶ。				
4	自閉症スペクトラム障害について 4 軽度の自閉症の保育における対応を学習する。	11	乳幼児期の対人関係と言葉の障害特性 障害児の言語の特徴について学ぶ。				
5	注意欠陥多動性障害（ADHD）について 保育場面での関わり方について学習する。	12	検査の実施 学生同士がペアとなって検査を実施する。				
6	学習障害（LD）について 保育場面での関わり方について学習する。	13	障害児の保育のポイント 1 障害児の保育する上での工夫について学習する。				
7	知的な発達に障害のある幼児の保育について ダウン症の保育場面での対応を学習する。	14	まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	それぞれの発達障害の特徴と対応について理解しているか				50%
		技能・表現	障害児保育について理解し、障害児への対応が身についているか。				30%
課 題	技能・表現	遠城寺式発達検査法について理解し、要点を分析し記述できているか				10%	
	思考・判断	積極的に学ぶ姿勢が身についているか				10%	
教科書	「よくわかる障害児保育」尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子 編 ミネルヴァ書房						
参考書	「光とともに… 自閉症児を抱えて」戸部けいこ 著 秋田書店						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習として次回の課題部分の教科書を読む。60 分 復習として授業ノートとプリントを見直す、課題としてレポートを作成する。180 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱを履修していること						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDM-5-M-3	特別支援教育	森定美也子	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	発達障害、知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由等の障害特性の理解、対応について事例をもとに具体的に検討する。 【乳幼児、障害特性、インクルーシブ教育】						
実務経験と教授内容	保育所の巡回相談や保健所の発達相談の経験を有する教員が、事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	障害児と周囲の子どもが共に成長していける指導法を身につける。						
○ 技能・表現	障害児の特徴について理解し、その対応方法を身につける。						
△ 知識・理解	障害児やその保護者の心に共感し、環境を整えることができる。						
△ 思考・判断	論理的な思考を用いて障害児を巡る問題に取り組む。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度と理念、仕組み	8	注意欠陥・多動性障害児の特性を踏まえた支援方法				
2	学習障害児及び軽度の知的障害児の心理的・行動的特性、学習過程の理解	9	自閉症スペクトラム障害児の特性を踏まえて支援方法				
3	注意欠陥・多動性障害児の心理的・行動的特性、学習過程の理解	10	肢体不自由・病弱児における学習上及び生活上の困難と支援の原則				
4	自閉症スペクトラム障害児の心理的・行動的特性、学習過程の理解	11	「通級による指導」及び「自立活動」教育課程上の位置づけと実践内容				
5	視覚障害児、聴覚障害児における学習上及び生活上の困難の理解	12	家庭や他機関との連携を踏まえた個別の指導計画及び個別の教育支援計画の意義と内容				
6	肢体不自由・病弱児における学習上及び生活上の困難の理解	13	個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成方法				
7	学習障害児及び軽度の知的障害児の特性を踏まえた支援方法	14	多様な支援ニーズのある子どもたちへの対応				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	それぞれの障害の特徴と対応について理解しているか				50%
		技能・表現	障害について理解し、要点を分析し記述できているか				30%
課題	知識・理解	障害のある子どもにとって過ごしやすい環境を整えることができるか				10%	
	思考・判断	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	「特別支援教育総論」 川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著 北大路書房						
参考書	「光とともに… 自閉症児を抱えて」 戸部けいこ 著 秋田書店						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習として次回の課題部分の教科書を読む。60 分 復習として授業ノートとプリントを見直す、課題としてレポートを作成する。180 分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格選択必修科目、 認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱを履修していること						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
SWE-5-M-3	在宅保育	小笠原眞弓	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	保育サービスの一環であるベビーシッターの社会的役割と基本姿勢を理解する。家庭訪問保育の理論と実際を学び、専門性と責任感をもって保育並びに子育て支援ができる力を養う。 【乳幼児、個別保育、居宅訪問型保育、子育て支援】						
実務経験と教授内容	第7回は現職応急手当普及員を講師に招き、乳幼児の救命救急について講義する。			アクティブラーニング	グループワーク		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	乳幼児期の発達を理解し、状況に応じた適切な対応ができる。						
○ 知識・理解	在宅保育の専門性を学び、愛情を持って支援することができる。						
△ 思考・判断	個別対応について問題解決できる力をみにつける。						
△ 技能・表現	乳児保育の専門性について理解し、実践力を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	オリエンテーション、家庭訪問保育とは？ 保育の専門性と保育マインドについて			8	居宅訪問型保育における環境整備		
2	居宅訪問型保育の概要、乳幼児の生活と遊び 手づくり玩具の制作			9	安全の確保とリスクマネジメント、居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項		
3	乳幼児の発達と心理			10	居宅訪問型保育における保護者への対応		
4	乳幼児の食事と栄養			11	子ども虐待と保育者のすべきこと		
5	小児保健Ⅰ：乳幼児の健康観察のポイント、発育と発達、衛生管理・消毒、薬の預かり			12	特別に配慮を要する子どもへの対応(0～2歳)		
6	小児保健Ⅱ：健康上の留意点、病気とその対応、自己予防と対応、CPR、AED (外部講師)			13	保育技術(養護と遊び)		
7	居宅訪問型保育の保育内容、保育所保育指針に準じた保育			14	一般型家庭訪問の業務、まとめ		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末テスト	知識・理解	在宅保育の専門性を理解できているか				50%
			乳幼児の特性と保育者の対応について理解できているか				30%
課題	思考・判断 技能・表現	個別保育において適切な判断と対応ができるか				10%	
		学んだ知識を用いて課題達成ができるか				10%	
教科書	「家庭訪問保育の理論と実際」第2版 [監修] 公益社団法人全国保育サービス協会						
参考書	「保育所保育指針」フレーベル館						
課題・試験等のフィードバック	課題については、次回の授業でコメントを伝える。						
予習・復習の内容と時間	予習: 次回の授業内容のテキストを読み、わからない語句は調べておく。120分 復習: 授業内容を振り返り、配付プリントを整理しながらノートをまとめる。120分						
免許・資格	認定ベビーシッター資格必修科目(保育士資格+本科目)						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	昼休憩時間および放課後、研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-4	ピアノⅡ	田原淑子 他	2	演習	保育	通年 (前期)	選択
授業の概要と キーワード	<p>前期…ピアノⅠでのグレードを引き継ぎ、課題曲を学習させる。また弾き歌い曲も並行して学習することによりさらに実践力を高めるようにする。秋の音楽学習発表会への導入を行う。</p> <p>後期…音楽学習発表会に参加することで演奏会での演奏スタイルや運営を経験する。前期に引き続き弾き歌い曲を学習しより豊かな表現力を養う。15曲以上の曲を合格レパートリーを増やす。</p> <p>【ピアノ・弾き歌い・表現力・実践力】</p>						
実務経験と 教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	ピアノ曲や弾き歌い曲における音楽の内容や奏法について理解する。						
○ 技能・表現	ピアノ演奏や弾き歌い演奏において豊かな表現ができる。						
△ 知識・理解	子どもの心身の発達を理解し、寄り添った音楽活動ができるようになる。						
△ 態度・志向	常に前向きでピアノのスキルを高めようと努力できる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	春休みの課題を個人レッスン ピアノ曲:ブルグミュラー25の練習曲より ソナチネより 弾き歌い曲:あめふり	8	ピアノ課題曲と弾き歌い曲の実技確認テスト				
2	個人レッスン 春休みの課題の仕上げ…ピアノ曲 弾き歌い曲:かたつむり	9	個人レッスン 音楽学習発表会への導入 グレード課題曲以外の曲で発表会の曲を選曲 (連弾曲等も含む)				
3	個人レッスン ピアノ課題曲(グレード表より) 弾き歌い曲:おしょうがつ	10	個人レッスン 音楽学習発表会の曲 譜読み				
4	個人レッスン ピアノ課題曲(グレード表より) 弾き歌い曲:トマト・雨の日の遊園地他	11	個人レッスン 音楽学習発表会の曲 音とリズムの確認				
5	個人レッスン ピアノ課題曲(グレード表より) 弾き歌い曲:しゃぼんだま	12	個人レッスン 音楽学習発表会の曲 和音のつかみ方				
6	個人レッスン ピアノ課題曲(グレード表より) 弾き歌い曲:ぞうさん	13	個人レッスン 音楽学習発表会の曲 部分練習の徹底 弾き歌い曲:生活の歌等の復習				
7	個人レッスン ピアノ課題曲(グレード表より) 弾き歌い曲:雪	14	個人レッスン 音楽学習発表会の曲 弾き歌い曲:夏の保育実習にむけて				

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-4	ピアノⅡ	田原淑子 他	2	演習	保育	通年 (後期)	選択
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
15	個人レッスン 音楽学習発表会の曲 暗譜	22	個人レッスン 弾き歌い曲:歌詞の意味や情景をしっかりとらえる				
16	個人レッスン 音楽学習発表会の曲 曲想の表現を深める	23	個人レッスン 弾き歌い曲:明瞭な発音で歌う				
17	グループレッスン 音楽学習発表会の曲 仕上げ	24	個人レッスン 弾き歌い曲:正しい拍子感とリズムで演奏する				
18	個人レッスン 弾き歌い曲:春の曲	25	個人レッスン 弾き歌い曲:曲想を意識した伴奏法を考える				
19	個人レッスン 弾き歌い曲:夏の曲	26	個人レッスン 弾き歌い曲:歌とピアノ伴奏のバランスを考える				
20	個人レッスン 弾き歌い曲:秋の曲	27	個人レッスン 弾き歌い曲:弾き歌い課題表の合格確認 試験エントリー曲数・選曲番号の提出				
21	個人レッスン 弾き歌い曲:冬の曲	28	グループレッスン 弾き歌い曲:試験時演奏のやり方で総復習				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	音楽の内容を理解できているか				40%
		技能・表現	表現力豊かな演奏ができているか				20%
		知識・理解	子どもと共に音楽活動するという意味を理解できているか				10%
	小 テ ス ト	知識・理解	音楽の内容を理解できているか				10%
技能・表現		表現豊かな演奏をできる技術が身につけられているか				10%	
平 常 点	態度・志向	積極的に学びスキルアップしようとする姿勢が身についているか				10%	
教 科 書	*バイエル教則本 *ブルグミュラー:25の練習曲 *ソナチネ第1・2巻 *各ソナタアルバム *カバレフスキー:こどものための小曲集 *バッハ:アンナマグダレーナのために・インベンションとシンフォニア *幼児の四季:春夏・秋冬 *その他プリント						
参 考 書	新音楽辞典(編集:浅香 淳)音楽之友社						
課題・試験等のフィードバック	ピアノグレード表・弾き歌い課題表において合格曲には日付けと印を担当教員が記入し進捗が明確にわかるようにしている。レッスンノートは毎回提出し担当教員がチェックしコメントをする。試験後は必要に応じて呼び出し、今後の練習計画等を指導する。						
予習・復習の内容と時間	次回授業に向けて予習・復習練習は必須の科目です。演習科目の自宅学習時間の標準は週に2時間程度ですが、ピアノに関しては毎日最低30分以上の練習を継続することをお勧めします。						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター選択必修科目						
受講要件等	毎回のレッスン時に受けた指導内容と感想を書いたレッスンノートを作り日々の練習に活かすこと。欠席した場合は学内で1週間以内に1時間の自主補充練習をし、日付け・時間・練習曲目等を記入した補充練習カードを提出し報告すること。						
オフィスアワー等	非常勤講師については出校日の授業後。 専任教員については出来る限り対応しますが、時間を多くとる場合はできれば事前に予約してください。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
ESM-5-M-2	パーカッション I	新井貞子	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	保育現場でのリズム奏や合奏指導に役立つように、打楽器を中心に各楽器の扱い方・奏法・リズムの基礎打ち、表現の基礎を学び、合奏につなげる。【打楽器、リズム奏、合奏】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	リズム・合奏等理解し、状況に応じて適切に対応できる。						
○ 技能・表現	合奏等することによりチームワーク・リーダーシップを養うことができる。						
△ 知識・理解	色々な楽器の特質を知り、指導力がついてくる。						
△ 態度・志向	積極的に授業に取り組むことができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	基礎リズムの練習・倫理の基礎 基礎リズムの練習(小太鼓のスティックを使う)	8	楽器について 基礎リズムの復習				
2	基礎リズムの練習(小太鼓のスティックを使う) 基礎リズム	9	基礎リズムの復習 体を使ったリズム表現				
3	楽器の説明・使い方① ①の楽器を各自、音や奏法で確かめる(5種類)	10	ボディパーカッションの練習				
4	楽器の説明・使い方② ②の楽器を各自、音や奏法で確かめる(5種類)	11	合奏の楽譜作り①(初級用)				
5	楽器の説明・使い方③ ③の楽器を各自、音や奏法で確かめる(5種類)	12	合奏の楽譜作り①(楽譜提出) 合奏の楽譜作り②(中級用)				
6	楽器の説明・使い方④ ④の楽器を各自、音や奏法で確かめる(5種類)	13	合奏の楽譜作り② 合奏の楽譜作り②(楽譜提出)				
7	楽器の説明・使い方⑤ ⑤の楽器を各自、音や奏法で確かめる(5種類以上)	14	小編成の合奏曲の演奏導入(1曲) 合奏(大編成導入)				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	課題	知識・理解	いろいろな楽器を使う事が出来るか				50%
	小テスト	技能・表現	学習した事が身についているか				30%
	平常点	知識・理解 態度・志向	色々な楽器の特質を知り、指導力がついているか 積極的な受講態度で学習できていたか				10% 10%
教科書	「リズムの基礎」 呉 暁、桐山 春美 音楽之友社、 「やさしい打楽器教本」 猪瀬 雅治 (株)宮本卯之助商店						
参考書	合奏曲集、ボディパーカッション曲、打楽器辞典						
課題・試験等のフィードバック	毎回の小テストは次回の授業でコメントと共に返却する						
予習・復習の内容と時間	予習:各楽器のパートを練習する。30分 復習:授業内容を振り返り、ノートを見直しておく。30分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
ESM-5-M-4	パーカッションⅡ	新井貞子	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	パーカッションのⅠの応用編・合奏曲の各パート別練習により、保育現場で役立つ合奏譜作りに取り組み演奏する。【打楽器、リズム奏、合奏、合奏譜作り】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	リズム・合奏等理解し、状況に応じて適切に対応できる。						
○ 技能・表現	合奏等することによりチームワーク・リーダーシップを養うことができる。						
△ 知識・理解	色々な楽器の特質を知り、指導力がついてくる。						
△ 態度・志向	積極的に授業に取り組むことができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	基礎リズム 楽器の説明	8	合奏練習				
2	楽器の使い方 各楽器の小テスト	9	合奏練習				
3	合奏の各パート練習(各自楽器を決める)	10	合奏練習(合奏の各自演奏評価する) 体を使ったリズム練習				
4	合奏の各パート練習 各楽器の練習・まとめ・評価	11	応用編				
5	合奏導入 合奏(音楽発表会での演奏練習に入る)	12	園児指導の合奏譜作り(小編成) 園児指導の合奏譜作り(楽譜提出)				
6	合奏(音楽発表会での演奏練習に入る)	13	園児指導の合奏譜作り(大編成) 園児指導の合奏譜作り(楽譜提出)				
7	合奏(音楽発表会での演奏練習に入る)	14	合奏譜・移調練習 まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	平常点	知識・理解	リズム・合奏等を理解し、状況に応じて適切に対応できたか				50%
		態度・志向	積極的な受講態度で学習できていたか				10%
	小テスト	技能・表現	色々な楽器を使い、演奏することができたか				30%
知識・理解		色々な楽器の特質を理解できたか				10%	
教科書	「リズムの基礎」呉 暁、桐山 春美 音楽之友社、 「やさしい打楽器教本」猪瀬 雅治 (株)宮本卯之助商店						
参考書	合奏曲集、ボディパーカッション曲、打楽器辞典						
課題・試験等のフィードバック	毎回の小テストは次回の授業でコメントと共に返却する						
予習・復習の内容と時間	予習:各楽器のパートを練習する。30分 復習:授業内容を振り返り、ノートを見直しておく。30分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
ESM-5-M-4	幼児音楽	湯川絹子	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	<p>楽しく歌う表現活動は、幼児にとって身近な音楽表現であり、毎日の生活に欠かせないものである。</p> <p>(1) 美しい響きを伴った発声法を身につける。</p> <p>(2) 子供たちが「自分もまねして歌ってみよう」と思う指導方法を学ぶことができる。</p> <p>(3) 弾き歌の歌唱曲・合唱曲を通し現場での保育実践力を高めることができる。</p> <p>【美しく響きある声、音程、リズム、表現力】</p>						
実務経験と教授内容	音楽教員・幼稚園歌唱指導の経験を活かして保育現場で実践できる歌唱の授業を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	四季に応じた行事・儀式への音楽指導を身に付けることができる。						
○ 技能・表現	曲の雰囲気表現し積極的に取り組むことができる。						
△ 態度・志向	積極的に授業に参加し将来に役立つよう学ぶことができる。						
△ 知識・理解	幼児の歌の内容を深く理解し歌唱することができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	歌唱指導「幼児の春の歌(アイアイ等)の楽曲理解と指導・合唱指導」			8	歌唱指導「幼児の秋の歌(ニャニユニョの天気予報等)の楽曲理解と指導・合唱指導」		
2	歌唱指導「幼児の春の歌(せんせいとおともたち等)の楽曲理解と指導・合唱指導」			9	歌唱指導「幼児の秋の歌(やさいもグーチーパー等)の楽曲理解と指導・合唱指導」		
3	歌唱指導「幼児の春の歌(森のくまさん等)の楽曲理解と指導・合唱指導」			10	歌唱指導「幼児の秋の歌(ヤンチャリカ等)の楽曲理解と指導・合唱指導」		
4	歌唱指導「幼児の夏の歌(バナナのおやこ等)の楽曲理解と指導・合唱指導」			11	歌唱指導「幼児の冬の歌(たきび等)の楽曲理解と指導・合唱指導」		
5	歌唱指導「幼児の夏の歌(サンサンサン等)の楽曲理解と指導・合唱指導」			12	歌唱指導「幼児の冬の歌(雪等)の楽曲理解と指導・合唱指導」		
6	歌唱指導「幼児の夏の歌(ぼくのミックスジュース等)の楽曲理解と指導・合唱指導」			13	歌唱指導「幼児の冬の歌(赤鬼と青鬼のタンゴ等)の楽曲理解と指導・合唱指導」		
7	春夏の楽曲についての歌唱実技確認・合唱グループ発表			14	秋冬の楽曲についての歌唱実技確認・合唱グループ発表		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	曲の雰囲気表現し発声法を活かした歌唱表現ができるか。				50%
		技能・表現	美しい響きを伴った発声法を活かした歌唱表現ができるか。				30%
		知識・理解	幼児の歌の内容を深く理解し歌唱することができるか。				10%
平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢がみについているか。				10%	
教 科 書	「幼児の四季(春夏の歌・秋冬の歌)」早川史郎 エー・ティ・エヌ、賛美の歌、プリント						
参 考 書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	実技試験終了後、評価の時間を設ける。						
予習・復習の内容と時間	予習: 次回の歌唱曲の譜読みをしておく。30分 復習: 授業内容を振り返りもう一度歌唱しておく。30分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	幼児体育 I	今西香寿	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	<p>幼児期は遊びの中から生きていく力を身につけていく。運動あそびの経験は、多様な動き、基本的動作の獲得につながり、生涯に渡って、運動を楽しむ基盤となり、心の発達にもつながる。子どもの発育発達に応じた運動あそびの種類や方法を学び、実践する。 【運動あそび・動きの獲得・発育発達・生きていく力】</p>						
実務経験と教授内容	幼稚園や地域での体育指導講師の経験を活かし、現場の実践例を折込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの発育発達について理解し、運動あそびの種類を身につける。						
○ 技能・表現	子どもの主体性を大切にしながら、発育発達に応じた運動あそびをすることができるようになる。						
△ 知識・理解	子どもの発育発達を理解した上で、豊かな感性と心を育むことができるように援助することができる。						
△ 態度・志向	子どもの遊び環境を理解し、その場に応じた遊びを提供できる力が身についている。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	オリエンテーション-幼児体育の必要性について・基本的動作の獲得について			8	用具を使って③-マット遊び		
2	移動系の遊び①-走る・歩く・逃げるなど用具を使わない遊びの体験			9	用具を使って④-サーキット遊び		
3	移動系の遊び②-走る・歩く・逃げるなど用具を使った遊びの体験			10	用具を使って⑤-パラバルーンの体験		
4	伝承遊びの体験			11	用具を使って⑥-パラバルーンを使ってふりつけを創作・発表する		
5	操作系の遊び①-ボールを使って幼児期の運ぶ・転がす・投げる・受ける			12	水遊びの体験①-プール		
6	用具を使って①-フラフープを使った遊び			13	水遊びの体験②-プール体験での振り返り		
7	用具を使って②-縄跳びを使った遊び			14	まとめ-運動あそびにおける保育者の援助		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	知識・理解	本時の授業における運動あそびのねらいやルールを理解することができるか、ノートを作成することができるか				60%
	平 常 点	技能・表現	運動あそびの指導法を理解しているか				20%
		知識・理解	子どもの発育発達を理解し、一人ひとりの子どもに応じた遊びを展開することができるか				10%
		態度・志向	仲間と積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%
教科書	特になし						
参考書	「子どもが育つ運動あそび」 倉 真智子他著 みらい						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	各回の授業内容をノートにまとめ、内容を理解し次回の授業に応用できるようにする。60 分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	水曜日の昼休み、研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
ESP-5-M-3	幼児体育Ⅱ	加藤博之	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	幼児の基礎運動技能を育むため、自らいろいろな運動遊びの実践と理論を踏まえ、個人の活動意欲に応じた適切な運動体験の援助力を養う。また、幼児の年齢に応じた遊びを立案発表、相互評価などの実践練習を行う。【運動あそび、動きの獲得、発育発達、生きていく力】						
実務経験と教授内容	幼児体育指導実務経験者が実践的内容を教授する。			アクティブラーニング	模擬授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	運動あそびの基礎的な知識を習得する。						
○ 技能・表現	実技指導の実践練習を通して、指導力をつける。						
△ 知識・理解	子どもの発達について理解し、適切に指導できる。						
△ 態度・志向	運動あそびの楽しさを伝えることができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	基礎体力づくり 幼児期の基礎体力の理解を深め、身体活動の実践をする			8	実技指導の実践練習(屋外2) 運動場など大きいスペースでの運動あそびの指導案を立案し、模擬指導を行う		
2	運動会 運動会の意義を理解し、活動内容や種目を実践する			9	実技指導の実践練習(屋内1) 保育室など小さいスペースでの運動あそびの指導案を立案し、模擬指導を行う		
3	親子体操 親子体操の意義を理解し、活動内容や種目を実践する			10	実技指導の実践練習(屋内2) 体育館など大きいスペースでの運動あそびの指導案を立案し、模擬指導を行う		
4	リズム体操(1) 幼児期のリズム体操の意義を理解し、グループで振付を立案する			11	実技指導の実践練習 野外での運動あそびの指導案を立案し、模擬指導を行う		
5	リズム体操(2) グループで振付の修正と練習をする			12	実技指導の実践練習(運動会1) 運動会での競技種目の指導案を立案し、模擬指導を行う		
6	リズム体操(3) 発表と相互評価を行う			13	実技指導の実践練習(運動会2) 運動会での演技種目の指導案を立案し、模擬指導を行う		
7	実技指導の実践練習(屋外1) 園庭など小さいスペースでの運動あそびの指導案を立案し、模擬指導を行う			14	実技指導のまとめ 模擬指導に対する総評を行う		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	課題	知識・理解	運動あそびの考え方が正しく理解できているか				40%
			レポートにおいて、結果から論理的に考察を展開できるか				10%
			適切な文章表現を用いて、レポートを作成できるか				10%
平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
レポート	思考・判断	レポートにおいて、結果から論理的に考察を展開できるか				10%	
		技能・表現	適切な文章表現を用いて、レポートを作成できるか				20%
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	「幼児期の運動あそび—理論と実際—」西田俊夫編著 不昧堂出版						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。60 分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-4	音楽表現	田原淑子	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携認定こども園教育保育要領の領域のひとつである「表現」を他の領域とも幅広く関連させながら、特に「音楽表現」に関して保育者としてまた、ワークショップ等でのファシリテーターとして出来ることやその技術を探る。 【ユニバーサルデザイン、歌、楽器、アイデア、言葉かけ】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもが持っている表現手段を理解し指導者になるための考え方を身につける。						
○ 技能・表現	子どもの音楽活動をサポートできる実践的な技術を身につける。						
△ 知識・理解	子どもの年齢や個々の音楽的な発達を理解できる。						
△ 思考・判断	多様な表現力を生み出すために様々なアイデアを出すことができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション 領域「表現」と音楽表現について	8	人と人がつながる音楽表現(愛唱歌を活用して)				
2	音楽の力・・・気持ちを歌にのせて歌う	9	子どもの表現活動を支える簡単なピアノ演奏				
3	ユニバーサルデザインとは	10	ピアノのクラスター奏法を使って表現しよう				
4	コミュニケーションとしての音楽表現	11	クリエイティブ音楽ムーブメントについての解説				
5	豊かなこころの発達と音楽 マザリーズについて	12	乳児向けのワークショップ計画				
6	言葉の発達と音楽	13	幼児向けのワークショップ計画				
7	歌って遊ぶ(わらべうたなど) オノマトペで遊ぶ	14	まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	音楽表現についての考え方を理解しているか				50%
		技能・表現	歌やピアノなど実践力を活かすことができるか				10%
	平 常 点	技能・表現	歌やピアノなどの実践力が身につけているか				20%
思考・判断		自らのアイデアを生み出すことができるか				10%	
知識・理解	知識・理解	子どもの発達に関して理解しているか				10%	
教科書	「ユニバーサルデザインの音楽表現」 星山麻木編著 萌文書林、その他適宜プリント配付						
参考書	「わらべうたあそび120」 阿部直美著 ナツメ社、「子どもと遊ぶピアノ曲」 高橋好子ほか編 音楽之友社						
課題・試験等のフィードバック	課題について次回の授業においてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習: 次回に向けてわらべうたやピアノ曲の練習。 復習: 教科書の内容を読み返し、授業ノートを見直す。週に予習復習合計 60 分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	研究日以外の放課後 研究室						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-4	身体表現	今西香寿	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	<p>子どもの感性を育む保育を展開する能力を身につけることをねらいとし、保育者としての適切な援助力を身につける。身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わいながら、仲間と一緒に取り組むことによって、互いに共感し、コミュニケーション能力を高める。 【身体活動・表現力・コミュニケーション】</p>						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもがのびのびと自分を表現する力を引き出すことができるよう、一人ひとりに応じた対応ができる。						
○ 技能・表現	子どもの主体性を大切にしなが、適切な表現活動の指導について理解する。						
△ 知識・理解	子どもの発育発達を理解した上で、豊かな感性と心を育むことができるように援助することができる。						
△ 思考・判断	仲間と協力をし、互いの意見を取り入れながら活動を行うことができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	オリエンテーション-乳幼児の心身の発達について理解する。			8	言葉のリズムを楽しむ-リズム遊び		
2	「幼児期運動指針」における幼児期の運動発達の特性と経験しておきたい遊びについて			9	縄跳びで基本動作(跳ぶ)のいろいろを体験する		
3	身体表現における模倣とごっこ遊びなどの模倣遊びの重要性			10	リズムに合わせてステップする		
4	発達をふまえた幼児の身体表現の実践① - 身体部位を認知する			11	模倣を体験し、楽しむ		
5	発達をふまえた幼児の身体表現の実践② - からだで表現することを楽しむ			12	表現行動の発達と身体表現活動指導の要点-「保育内容健康」との関連性をふまえる		
6	鬼遊びの中で基本の運動能力(走る・かわす)を高める			13	身体表現活動において心がけるべき注意点について		
7	全身を使ったリズミカルな移動の動きを楽しむ			14	まとめ-身体表現を育む保育者の援助		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	平常点	知識・理解	子どもが表現する力を発揮することができるような方法を積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				60%
	課 題	技能・表現	授業で行った指導法を理解できているか				20%
		知識・理解	指導法をノートにまとめ、理解力を深めることができるか評価する				10%
そ の 他	思考・判断	人前で表現活動を行うことができるか				10%	
教科書	特になし						
参考書	「乳幼児のための保育内容表現身体音楽造形」 佐野美奈他著 ナカニシヤ出版						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	各回の授業内容をノートにまとめ、内容を理解し次回の授業に応用できるようにする。60 分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	毎週水曜日 昼休憩時間						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-4	国語表現	二平京子	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	母語としての国語に関する基本的知識を深め、子どもの言葉の発達への理解を深める。また、子どもたちの言葉の成長に関わる者として、自らの言葉への感性を高める。主に書き言葉の習熟と、日常のコミュニケーション及び、自己表現能力の養成を目標とする。【敬語、スピーチ、言語、文字】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの心身の発達過程と特徴を理解し、適切に対応できる						
○ 技能・表現	明瞭な発音・発声で、園児の表現を引き出し、適切に指導する力を身に付ける						
△ 知識・理解	子ども達の内面に生じる様々な動きに気付き、共感をもって接することができる						
△ 思考・判断	自己を正しくわきまえた言語表現と、豊かで円滑な対話力を培う						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	オリエンテーション 言葉の力 『奇跡の人』鑑賞①	8	思いを言葉に② 3分間スピーチ⇒相互評価 ペン習字④ かな文字の練習				
2	『奇跡の人』鑑賞②、考察・発表・作文	9	敬語表現① 基本の確認⇒練習 ペン習字⑤ かな文字練習				
3	一話し上手の基礎ー 呼吸・発音・表情 ペン習字① かな文字練習	10	敬語表現② 保育現場での基本の確認⇒練習 ペン習字⑥ かな文字練習				
4	一話し上手の5つのポイントー ① 挨拶上手 ② 聴き上手 / ペン習字② かな文字の練習	11	素話① 実践⇒相互評価 ペン習字⑦ 漢字練習				
5	一話し上手の5つのポイントー ③ 見つけ上手 ④ 気持ち上手 / ペン習字③ かな文字の練習	12	絵本を読む② 実践・相互評価 ペン習字⑧ 漢字練習				
6	一話し上手の5つのポイントー ⑤ 伝え上手 「話し上手の5つのポイント」復習	13	紙芝居を演じる① (実践・相互評価) ペン習字⑨ 封書の形式				
7	思いを言葉に① 準備(テーマ決め・原稿作り) / 3分間スピーチ⇒相互評価	14	全体のまとめ				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	課題	知識・理解	保育現場で必要な、基本的知識を習得する				40%
		技能・表現	自信をもって子どもたち対し、指導すべき内容を明確に発信できる				10%
		思考・判断	様々な意見を総合的に捉え理解した上で、確かな判断を下すことができる				10%
小テスト	知識・理解	保育内容とその意義について正しく認識できている				20%	
	知識・理解	子どもの発達段階等や、保護者の意図を理解し、適切に対応できるか				10%	
平常点	技能・表現	保育を志すものとして、それに相応しい言動が取れる				10%	
教科書	適宜、資料を授業にて配付する						
参考書	『日本語の表現』久保田修編 双文社出版、『イキイキ話し方教室』村松真貴子著 ぎょうせい						
課題・試験等のフィードバック	課題に対する腹案を持って授業に参加し、その前半で発表の時を持ち、相互評価の機会とする。優れた作品等については授業の中で紹介する						
予習・復習の内容と時間	予習:配付プリントを読んでおくこと 60分 ペン習字の練習 60分 復習:小テストに向けた準備を計画的に行う 60分、未完成の課題を仕上げて授業に臨む 60分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業実施日の昼休憩、放課後						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-3	子どもの自然遊び	芝田史仁	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	自然体験活動としてのネイチャーゲームについて、そのねらいと内容、実践方法を体感的に学ぶ科目である。講義や保育実践を通じて、ゲームへの理解を促すと共に、教材研究と模擬保育を通じて、保育実践力の涵養を図る。【自然体験活動、ネイチャーゲーム、保育内容の理解と方法】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	模擬授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	ネイチャーゲームのねらいと内容、保育者の役割、その基本的な活用方法を理解している。						
○ 技能・表現	子どもの自然体験活動を指導・支援することができる。						
△ 知識・理解	自然体験活動を通して育みたい、子どもの姿を理解している。						
△ 思考・判断	適切なネイチャーゲームを企画し、実践、展開できる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	イントロダクション 自然大好きな子どもを育てる保育			8	保育実践Ⅳ 木の実や木の葉で遊ぶ		
2	自然体験活動とネイチャーゲーム ネイチャーゲームとは			9	教材研究Ⅱ ネイチャーゲームを計画しようⅠ(内容検討)		
3	ネイチャーゲームと保育 ネイチャーゲームを利用した保育のポイント			10	教材研究Ⅲ ネイチャーゲームを計画しようⅡ(指導案の作成)		
4	保育実践Ⅰ 私はだあれ(動物交差点)			11	模擬保育Ⅰ(未満児～年少)		
5	保育実践Ⅱ 探してみよう!(フィールドビンゴ)			12	模擬保育Ⅱ(年中)		
6	教材研究Ⅰ フィールドビンゴをつくってみよう!			13	模擬保育Ⅲ(年長)		
7	保育実践Ⅲ 森で遊ぶ			14	まとめ 次世代を担う子どもたちを育てるには		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	ネイチャーゲームを指導するのに必要な基礎知識を修得しているか				20%
		知識・理解	自然体験活動を通して育つ子どもの姿を理解しているか				10%
	課 題	知識・理解	実践した活動のねらいと内容、保育者の役割を理解しているか				30%
思考・判断		適切なネイチャーゲームの指導計画を立案できるか				10%	
そ の 他	技能・表現	模擬保育により適切にネイチャーゲームを指導することができるか				30%	
教科書	『子どもと楽しむ自然体験活動』 神長美津子ほか編著 光生館						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	毎回の授業終了時に、その日の活動と疑問点をまとめたシートの提出を求める。提出したシートは確認後、押印し、質問には次回の授業の初めに対応する。						
予習・復習の内容と時間	復習:毎回の授業内容を振り返り、ノートにまとめておくこと。 60 分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	質問や相談は、昼休み時間、研究室(1414)で対応。事前に予約することが望ましい。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HLS-3-M2	子どもの言葉遊び	山本玲子	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	1.子どもの心身の発達を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識と技術を、児童文化財(絵本、紙芝居、人形等)に親しむ経験を通して実践的に習得させる。 2.言葉遊びに使う教材の作成と活用法を考えて、具体的展開のための技術や表現方法を実践すると共に、他者の創造性や表現から学び取る感性を磨かせる。【人形を製作し演じる、歌遊び】						
実務経験と教授内容	本学附属幼稚園での実務経験を活かし、現在の子どもを取り巻く環境を理解した上で、実践してきた言葉遊びや事例を折り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	子どもの言葉遊びについての内容を理解した上で、専門的知識を習得し実践できるようになる。						
○ 技能・表現	保育現場で子どもの生活や状況に応じて対応できる、保育の指導力を身につける。						
△ 知識・理解	子どもの発達過程を理解し、言葉遊びを通して適切な関わりや言葉かけができるようになる。						
△ 思考・判断	子どもの言葉遊びを豊かに展開するために、多様な場面を想定し創造的な思考力を育む。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	保育における言葉遊びとは:授業の目的と概要を理解し保育者としての意識づくりを行う。		8	絵本の読み聞かせの実技:演技者の実技を観ながら良い所を見つけお互いを高めあう。			
2	手作り人形の製作:心を込めて丁寧に製作する。		9	手作り人形を使っての実技:お話から言葉に対する感覚や表現力を養うことを意識して演じる。			
3	手作り人形の製作:人形作りと並行してしてストーリーを考えていく。		10	手作り人形を使っての実技:人形の動きと話し方を意識して演じる。演技者の良い所を見つける。			
4	手作り人形の製作:人形を仕上げる。お話の構想を固めていく。		11	手作り人形を使っての実技:人形を通して保育者との信頼関係の基礎を培うことを意識して演じる。			
5	手遊び・歌遊びの実技:子どもの発達過程に即したねらいを考えて実技を行う。		12	手作り人形を使っての実技:発達過程に即したねらいを設定し、具体的場面を想定しながら演じる。			
6	歌遊び・伝承遊びの実技と紙芝居について:地域性のある遊び、伝えておきたい遊びを実践する。		13	手作り人形を使っての実技:演技者の良いところを見つけることでお互いに高めあう。			
7	絵本の読み聞かせの実技:言葉を聞こうとする意識や態度を育てることを意識して、読み聞かせを行う。		14	言葉遊びを通して行う教育:保育者は「言葉の先生」という意識を持ち、学修したことを文章にまとめる。			
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	実技	知識・理解	子どもの言葉遊びの内容を理解して、実技での表現力は身につけているか				40%
	課題	技能・表現	教材の作成とお話作りを通して、創作のお話と教材は活かされているか				30%
	課題	知識・理解	テーマを理解して適切な文章表現を用いて、レポートを作成できるか				10%
	小テスト	知識・理解	授業の内容を理解し、保育場面を想定し実践的な関わり方を考えられるか				10%
平常点	思考・判断	真面目に授業に出席し、積極的に学ぼうとする姿勢が身についたか				10%	
教科書	特になし						
参考書	「保育内容・言葉 第3版」岸井勇雄、「絵本から学ぶ子どもの文化」浅木尚美 ともに同文書院						
課題・試験等のフィードバック	実技と課題は授業中に見解をコメントする。レポート課題にはコメントをつけて返却する。						
予習・復習の内容と時間	学生の前で実技、発表を行うので、準備を行い練習しておくこと。90分 課題についてレポートを作成すること。180分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に、教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-3	子どもの表現遊び	田原淑子 井澤正憲 今西香寿	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	音楽・身体・造形の表現のさまざまな方法を学習しながら、またそれぞれの表現方法を融合し劇遊びに発展させる。活動を通じて表現の多様性を認識し自らの表現技術の引き出しを多くつくる。 『オムニバス方式』【音・動き・創作・表現力】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	保育の現場での音楽・身体・造形的な表現の方法や手段について理解する。						
○ 技能・表現	多様な表現力を身につけ子どもの表現を支える活動に活かすことができる。						
△ 知識・理解	子どもが感じたことを自分なりに表現できる環境を理解することができる。						
△ 思考・判断	表現活動を通して創造的な思考力を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション テーマの説明・グループ編成(6グループ)	8	各分野における表現の応用にトライする				
2	各グループで劇遊びへの計画をたてる テーマのシナリオを作る	9	劇遊びにむけて音楽・身体・造形の表現を総合的に構成する				
3	各分野(音楽・身体・造形)におけるテーマへのアプローチを考察する	10	劇遊びの発表に向けて練習する				
4	各分野における表現活動を行う	11	劇遊びの発表に向けて表現内容の改善を行う。				
5	各分野における活動内容に対してのチェックを行う	12	劇遊びの発表……A・B・Cグループ				
6	各分野における表現の改善をする	13	劇遊びの発表……D・E・Fグループ				
7	各分野における表現を発展させる	14	ふりかえりとまとめ				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	課題	知識・理解	音楽・身体・造形的な表現の方法や手段について理解できているか				50%
		思考・判断	創造的な思考力が身につくことについて表現に活かされているか				10%
	平常点	技術・表現	多様な表現について身につけられているか				30%
知識・理解		子どもの表現に目を向け、理解することができるか				10%	
教科書	特になし						
参考書	「乳幼児のための保育内容表現 身体・音楽・造形」佐野美奈ほか著 ナカニシヤ出版						
課題・試験等のフィードバック	授業のまとめのノートをもとにディスカッションをおこなう						
予習・復習の内容と時間	各回の授業内容をノートにまとめ、内容を理解し次回の授業に応用できるようにする。60分						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	水曜日の昼休み時間						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
SWE-5-M-4	子育て支援	西原弘	1	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	子育て家庭に対して保育士が行う相談等の支援の展開について学ぶ。保育士による相談支援の意義を十分理解し、保護者との信頼関係の重要性や受容的かかわり、子どもの成長の喜びの共有、秘密保持等、支援の基本を学ぶ。子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する。【相談支援、カウンセリングマインド、連携・協働】						
実務経験と教授内容	児童相談所勤務経験を有する教員が、現場の実践事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	PBL		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	保育士による子育て家庭に対する支援の意義と原則について理解する						
○ 技能・表現	子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する						
△ 知識・理解	連携・協働を意識した専門機関の活用方法がわかる						
△ 思考・判断	支援ニーズに気づき、支援を必要とする子育て家庭への理解ができる						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	子どもの保育とともに行う保護者支援			8	保育所等における支援		
2	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解			9	地域の子育て家庭に対する支援		
3	子どもおよび保護者の状況・状態の把握			10	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援		
4	支援の計画と環境の構成			11	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援		
5	支援の実践・記録・評価・カンファレンス			12	子ども虐待の予防と対応および要保護児童等の家庭に対する支援		
6	職員間の連携・協働			13	要保護児童等の家庭に対する支援		
7	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働			14	多様な支援ニーズをかかえる子育て家庭の理解と支援		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	子育て家庭に対する相談支援の展開がわかるか 連携・協働を意識した専門機関の活用方法がわかるか				40% 10%
	課題	知識・理解	レポートにおいて、自分の考えをまとめ、論理的に考察を展開できるか				10%
	平常点	技能・表現 思考・判断	演習を通じて、相談支援の展開のついて考えることができるか 支援ニーズに気づき、支援を必要とする子育て家庭への理解ができるか				30% 10%
教科書	新・基本保育シリーズ 19「子育て支援」 中央法規						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	・課題は次の授業で返却し、記載内容について感想や気づいた点について触れる。 ・期末試験終了後、採点講評を掲示する。						
予習・復習の内容と時間	各授業終了後、学習内容を復習する(90分)とともに、次の授業への準備を行うこと。(キーワード検索 60分、教科書を読み込み、用語の意味をまとめる 90分)						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	・関係する科目は、同期開講「子ども家庭支援の心理学」である。 ・毎回資料を配付するので、綴じるためのファイルを用意すること。						
オフィスアワー等	毎週月・金曜日の放課後 及び 事前に予約した日時						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-2	保育内容演習(人間関係)	川崎真望子	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	授業内容に応じてプリント、資料を配付する。グループワークの時間を設けて人間関係について検討する。保育者としての役割、子どもや保護者とのかかわりについて理解を深める。 【コミュニケーション、共同性、非言語能力】						
実務経験と教授内容	保育所やこども園での勤務経験を有する教員が現場の実践例を折り込みながら指導を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	領域「人間関係」を基に実践での対応、指導できる力をつける。						
○ 知識・理解	乳幼児期の人間関係の発達を理解し、適切に対処できる。						
△ 知識・理解	人との関わりを通して前向きに問題を解決する力をつける。						
△ 技能・表現	集団生活に必要なスキルを習得する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	オリエンテーション:本演習の目標と内容について確認する。			8	遊びの中で育つ人間関係:遊びの中でどのように人間関係を構築していくか検討する。		
2	現代社会と子どもの人間関係:地域とのネットワーク形成と子どもの環境について検討する。			9	人間関係を育てるための園内環境:ティーム保育を成功させるためのコツと落とし穴を学ぶ。		
3	コミュニケーション能力:コミュニケーションについて深く考え、ブレインストーミングする。			10	保育の質向上を目指す保育士としての心得:専門性が求められる現場での保育を考察する。		
4	領域「人間関係」のねらいと内容:領域「人間関係」がめざすものは何かを考える。			11	異文化保育からみた人とのかかわり:多様な文化的背景に対応できるかかわり方を学ぶ。		
5	保育者の役割と保護者のかかわり:園内の協力体制の重要性と家庭支援の必要性を学ぶ。			12	気になる子どもとのかかわり:気になる子どもへの対応策を学び、事例をもとに検討する。		
6	「人間関係」の発達とその問題:乳児期から幼児期までの人間関係の発達について理解する。			13	地域子育て協働をめざして:保育施設は協働的に学び合う場であるということを理解する。		
7	地域の人とのかかわり:社会性の発達に必要なスキルを習得し、地域交流の大切さを学ぶ。			14	授業の振り返り:保育者として人として、何を大切に生きてゆけばよいか考察する。		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	領域「人間関係」に関する基礎知識を修得しているか				50%
	課題・小テスト	知識・理解	課題に対する適切な解決策が提案できているか				30%
			学習した内容が理解できているか				
平常点	技能・表現	積極的な受講態度で学習できていたか				10%	
教科書	「領域 人間関係」 田宮縁 萌文書林						
参考書	「保育内容・人間関係」 小田 豊(編著), 奥野 正義(編著) 北大路書房						
課題・試験等のフィードバック	毎回の授業後に振り返りとしてコメントを記入し提出する。						
予習・復習の内容と時間	予習:次回の授業範囲を予習し、単語の意味等調べておく。課題への準備。 30分 復習:授業内容の振り返りをする。 30分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDM-5-M-3	保育内容演習(造形)	井澤正憲	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	造形的な表現活動を中心に、教材研究や模擬保育、芸術鑑賞を通して様々な表現を学び、子ども一人ひとりを大切にした造形表現の指導法について研究する。また、和歌山の文化を活かした内容の発展のために和歌山近代美術館と連携した内容も扱う。【表現、子どもの造形、子どもの表現】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP3】 専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	技能・表現	専門的知識を通じた保育の研究、実践、改善をすることができる。					
○	知識・理解	領域「表現」のねらい・内容に則り、子どもの表現を把握することができる。					
△	技能・表現	子ども一人ひとりを大切にした表現力を培うための実践ができる。					
△	知識・理解	子どもを主体にした多様な保育ができる。					
回	授業のテーマ及び内容					各回 100分	
1	造形表現の意義と目的について 物事を通して自分らしさを表すための表現の意義と、様々な芸術表現について		8	教材研究② 素描材料を用いた保育教材の実践と反省			
2	表現のための環境構成について 子どもの表現のための室内環境構成について。		9	教材研究③ 絵具を用いた描く活動の研究・計画			
3	表現を支える保育者、教師の役割 領域「表現」と小学校との連携について。		10	教材研究④ 絵具を用いた描く活動の研究・実践と反省			
4	遊びの中での表現① 造形遊びの実践		11	教材研究⑤ 立体素材を用いたつくる活動の研究・計画			
5	遊びの中での表現② 造形遊びの実験的題材開発 モデルの作成		12	教材研究⑥ 立体素材を用いたつくる活動の研究・実践と反省			
6	遊びの中での表現② 造形遊びの実験的題材開発 モデルの発表		13	芸術表現の鑑賞① 和歌山県立近代美術館での鑑賞			
7	教材研究① 素描材料を用いた保育教材の研究・計画		14	芸術表現の鑑賞② 作品鑑賞をもとにした教材の考察			
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	技能・表現	子どもの表現を理解し、計画と実践に活かされているか。				50%
		知識・理解	子どもの表現における知識が課題を通し、より理解を深めているか。				30%
		知識・理解	「表現」に対する思考力が深まっているか。				10%
平常点	技能・表現	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか。				10%	
教科書	特になし(適宜プリントを配付する)。						
参考書	「保育内容 表現 [第2版]」中川香子・清原知二編 みらい						
課題・試験等のフィードバック	授業内容のまとめをもとに、ディスカッションを行う。						
予習・復習の内容と時間	各回の授業内容をまとめ、内容を理解し、次回の授業に活用できるようにする。120分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業後の放課後に研究室にて対応する。その場合事前に伺いを知らせること。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
EDC-5-M-3	保育内容演習(自然)	芝田史仁	1	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	子どもと自然との関わりを援助する保育者に必要な知識と技能の修得を、体験学習と教材研究を通じて促す教科である。和歌山の豊かな自然を利用し、観察、飼育・栽培、教材研究、グループ討議、プレゼンテーション等を通じて、保育実践力向上を図る。【自然、センス・オブ・ワンダー、体験学修】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	調査学習		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	保育教材を分析し、適当な保育内容を構想・展開できる。						
○ 知識・理解	身近な動植物や自然遊びに関する基礎知識を有している。						
△ 知識・理解	自然を通して育つ子どもの心情・意欲・態度を理解している。						
△ 技能・表現	友達と協力して課題を解決できる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	ガイダンス/人間の生活と環境 「ネイチャーループカード」でつながろう			8	教材研究Ⅳ(飼育活動) 身近な生き物の飼育方法を調べ計画する 課題:身近な生き物の飼育(グループ)		
2	自然と触れ合い感動する 学内を探索し、和歌山の自然と触れ合う			9	飼育活動のねらいとポイント 飼育活動を振り返り、活動のポイントを考える		
3	教材研究Ⅰ キャンパス自然マップを作ろう			10	教材研究Ⅴ 自然を利用した遊びを調べ、探究する		
4	教材研究Ⅱ(草花遊び) 地域の草花遊びを調べ、発表の準備を行う			11	教材研究発表会 良く飛ぶ紙飛行機の作り方		
5	教材研究Ⅲ(栽培活動) 花と野菜の栽培カレンダーを作ろう 課題:カイトレダイコンの栽培(個人)			12	子どもの安全を守るにはⅠ 身の回りの危険な生物(動物)と対処法		
6	栽培活動のねらいとポイント 栽培活動を振り返り、活動のポイントを考える			13	子どもの安全を守るにはⅡ 身の回りの危険な生物(植物)と対処法		
7	身近な動物観察 学内で見つけた小動物を採取し、観察する			14	まとめ 「子どものセンス・オブ・ワンダー」を育むには		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	身近な動植物や自然遊びに関する基礎知識を身に付けているか				30%
		知識・理解	自然を通して育つ子どもの心情・意欲・態度を理解しているか				10%
	平常点	技能・表現	各回の活動を分析・評価し、適当な保育内容を構想・展開できるか				40%
		技能・表現	飼育栽培活動の記録を通して、動植物を観察する力を修得しているか				10%
その他	技能・表現	グループで協力して発表(草花遊び・紙飛行機)の準備を行えているか				10%	
教科書	特になし						
参考書	『体験する 調べる 考える 領域「環境」』 田宮緑著 萌文書林						
課題・試験等のフィードバック	毎回の授業終了時に、その日の活動と疑問点をまとめたシートの提出を求める。確認後、押印し、質問には、次回の授業の初めに対応する。						
予習・復習の内容と時間	復習:毎回の授業内容を振り返り、ノートにまとめておくこと。60分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	質問や相談は、昼休み時間、研究室(1414)で対応。事前に予約することが望ましい。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
CAE-5-M-2	キャリアデザイン	保育科教員	2	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	一人の社会人、保育者として生涯にわたり自己実現を図るために必要な基礎力を身に付ける。文章力の向上、基礎的な接客スキルやコミュニケーションスキルの向上を図るための実践的な学修を行う。振り返りを行いながら互いに人格を高め合う機会とする。 『オムニバス方式』【自己理解、社会人基礎力、就職支援】						
実務経験と教授内容	養護施設での勤務経験を有する教員が、経験を活かして社会性や対人関係スキルについて講義する。			アクティブラーニング	ロールプレイ		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP5】 社会人としての態度・志向性						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 態度・志向	社会人としての責任と役割を自覚し、生涯学び続ける態度を身につける。						
○ 技能・表現	自己理解の基本的な方法、コミュニケーションスキルを身につける。						
△ 知識・理解	社会人としての職責を果たすための実務能力を身につける。						
△ 態度・志向	課題に合う情報収集力、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	社会人とは：自ら目指す理想の保育者像を確認し、社会人としての意識づくりを行う。(小笠原)			8	面接の受け方：基本的な作法を踏まえて、効果的な自己アピールの方法を学ぶ。(田原)		
2	就職活動の実際：エントリーから内定に至る過程について詳しく学ぶ。(小笠原)			9	文章作法の演習①：文章作法の原則を確認し、内定承諾書、礼状の書き方を学ぶ。(今西)		
3	自己理解の演習：自己を分析し理解した事柄を文章化する。(森定)			10	文章作法の演習②：記録、報告書の書き方の演習に取り組む。(今西)		
4	目指すべき保育者像：各自の目指す保育者像について考え、文章化する。(小笠原)			11	職場での会話力：職業人として身につけるべき言語的コミュニケーションの基本を学ぶ。(桑原)		
5	履歴書の作成①：自己分析の演習をもとに、自己アピールの内容を文章化する。(西原)			12	人間関係の築き方：職場での望ましい人間関係の築き方について学ぶ。(桑原)		
6	履歴書の作成②：志望先に関する情報収集を行い、志望動機を文章化する。(西原)			13	保育職と現代社会：現代社会の情勢と保育職の重要性を確認し、自己の未来像を展望する。(小笠原)		
7	ビジネス作法の基本：社会人としての接遇の基本について学ぶ。(田原)			14	授業の振り返り：授業全体を振り返り、要点を確認し、学修したことを文章にまとめる。(小笠原)		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	態度・志向	社会人としての職責を自覚し、学び続ける態度を身につけたか				50%
		技能・表現	適切な文章表現を用いて、レポートが作成できるか				30%
		知識・能力	社会人として必要な基礎的な力が身につけているか				10%
平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身につけているか				10%	
教科書	特になし						
参考書	「なせば成る スタートアップセミナー学習マニュアル(三訂版)」 山形大学出版会						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題について見解やコメントを伝える。						
予習・復習の内容と時間	予習：次回の授業内容を理解し、必要な情報を収集しておく。 120 分 復習：授業内容を振り返り、配付資料を見直し整理しておく。 120 分						
免許・資格	特になし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	昼休憩時間および放課後、各担当者の研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
TPR-5-M-4	教育実習	小笠原眞弓	5	実習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	1年次の実習を振り返り、さらに保育に対する理解を深めたいうで学外実習に参加する。6月に12日間、附属幼稚園や主に和歌山県下の幼稚園において実習を行う。原則的には一年次と同じ幼稚園である。【幼稚園、認定こども園、子ども理解、責任実習、指導案】						
実務経験と教授内容	幼稚園において実習を行う。			アクティブラーニング	実習		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP4】統合的な学習経験と創造的な思考力						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	思考・判断	理論と実践を統合し、責任実習に向けて立案、教材研究に意欲的に取り組み実践力を身につけることができる。					
○	知識・理解	子どもや保育に関する専門的知識を修得する。					
△	知識・理解	子どもを理解し、愛情を持って適切に対応できる。					
△	技能・表現	子ども主体の保育を研究、立案、実行、改善ができる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	1年次実習の振り返りと2年次実習の準備 2年次実習の内容、目標を理解する。			8	実習体験の整理 I 自己評価と自己課題の達成度を確認する。		
2	指導案作成 責任実習に向けて指導案及び細案を作成する。			9	実習体験の整理 II 実習体験を発表し、学びを分かち合う。		
3	模擬保育 I (造責任実習に向けて指形表現分野) 指導案をもとに教師役・子ども役を体験する。			10	まとめ 理想の保育者像に向かって課題を明確にする。		
4	模擬保育 II (科学遊び・言葉分野) 指導案をもとに教師役・子ども役を体験する。			11			
5	模擬保育 III (音楽表現分野) 指導案をもとに教師役・子ども役を体験する。			12			
6	模擬保育 IV (体育遊び・ゲーム) 指導案をもとに教師役・子ども役を体験する。			13			
7	責任実習の準備、心得 実習の心構えについて学ぶ。			14			
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	その他	思考・判断	適切な対応や判断ができるか、実習先担当者の記録を参考に評価する				50%
		知識・理解	実習体験を通して子ども理解を深めることができたか				20%
	課題	知識・理解	実習体験を通して保育者の役割を理解し、適切な対応ができるか				20%
平常点	技能・表現	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか				10%	
教科書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋 編著 ミネルヴァ書房 「実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子 編 萌文書林 「幼稚園教育要領」フレーベル館、本学規定の実習記録ファイル						
参考書	「幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方」久富陽子 編 萌文書林						
課題・試験等のフィードバック	授業の中で、必要な助言や見解を伝える。						
予習・復習の内容と時間	予習: 責任実習に向けて、教材研究、準備に努める。60分 復習: 学内の授業や実習体験の振り返りを整理し、記録にまとめる。60分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	いつでも研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-4	保育実習Ⅱ	金谷有希子	2	実習	保育	前期集中	選択
授業の概要とキーワード	保育実習Ⅰ(保育所実習・施設実習)で体験学習したことをもとに、さらに保育所において実習を行う。見学・観察を継続し理解の段階を高め、参加・責任実習をとおして、乳幼児の理解と保育所保育士の職務を具体的に学ぶ。※2年次、夏期休暇中に主に和歌山県下の保育所における実習を10日間行う。【保育実習、保育所、認定こども園、責任実習】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	実習		
				地域の学修	○		
関連するDP	【DP4】統合的な学習経験と創造的思考力						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	思考・判断	理論と実践を統合し、責任実習に向けて立案、教材研究に意欲的に取り組み、実践力を身につける。					
○	知識・理解	保育に関する専門的知識を習得し、保育現場で子ども一人ひとりの生活や状況に応じて適切に対応できる。					
△	知識・理解	子どもを理解し、愛情を持って誠実かつ公平にかかわることができる。					
△	技能・表現	子どもの心に寄り添う共感力を背景に、子どもの自主性を重視した保育を実践できる。					
<p>保育実習Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ・ 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ・ 指導計画を立案し、実際に実践する。 ・ 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得する。 ・ 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 ・ 子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ・ 保育士としての職業倫理を理解する。 ・ 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する 							
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	そ の 他	思考・判断 知識・理解 技能・表現	(実習先担当者の記録を参考に評価する) 理論と実践を統合し、意欲や向上心を持って実習に取り組むことができたか				50%
			習得した専門的知識を基に、子ども一人ひとりに応じた保育ができたか				20%
課 題	知識・理解	子どもの最善の利益を考え、自主性を重視した保育が展開できたか				10%	
教科書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド<第3版>」 太田光洋 編著 ミネルヴァ書房 「実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子 編 萌文書林 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館 本学規定の実習記録ファイル						
参考書	「幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方」 久富陽子 編 萌文書林						
課題・試験等のフィードバック	実習中の巡回指導及び実習後の個別面談を行う。						
予習・復習の内容と時間	責任実習に向けて、教材研究、準備に努める。						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	保育実習指導Ⅱの受講を必須とする。						
オフィスアワー等	実習用携帯電話で対応を行う(7:00~19:00)						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-3	保育実習Ⅲ	西原弘	2	実習	保育	前期集中	選択
授業の概要とキーワード	8月・9月に、主として和歌山県下の保育所等以外の児童福祉施設等で10日間(かつ80時間以上)の実習を行う。保育実習Ⅰでの体験を基礎に、より高い専門性を身につける。 【保育実習、児童福祉施設、社会的養護、障害児保育】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	実習		
				地域の学修	○		
関連するDP	【DP4】統合的な学習経験と創造的思考力						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	思考・判断	これまでの学修経験と実践を統合して、子ども・利用者を理解し適切な対応ができる。					
○	知識・理解	保育に関する専門的知識を習得し、保育現場でひとり一人の生活や状況に応じて適切に対応できる。					
△	知識・理解	子ども・利用者を理解し、愛情を持って誠実、公平に関わることができる。					
△	技能・表現	心に寄り添う共感力を背景に、子ども・利用者の自主性を重視した支援ができる。					
<p><実習の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護全般に参加し、養護技術を習得する。 ・子ども・利用者ひとり一人の特性について理解し、支援方法を修得する。特に発達特性や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズを把握し、その支援方法について学ぶ。 ・支援計画を立案し、実際に実践する。 ・子ども・利用者との家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。 ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。 ・子ども・利用者の最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 ・児童福祉施設等で保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 							
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	その他	思考・判断 知識・理解 技能・表現	(実習先担当者の記録を参考に評価する) 理論と実践を統合し、子ども・利用者を理解し適切な対応ができたか 子ども・利用者の最善の利益を考え、ひとり一人に応じた保育ができたか 子ども・利用者を理解し、子ども・利用者の自主性を重視した支援が展開できたか				50% 20% 10%
	課題	知識・理解	自分を振り返り、適切な文章表現を用いて、レポートを作成できるか 子どもの思いを受け止め平等に関わる姿勢が身についているか				10% 10%
教科書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド〔第3版〕」太田光洋編著 ミネルヴァ書房、 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方(第2版)」相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林、 本学規程の実習記録ファイル						
参考書	専門教育科目の各テキスト、厚生労働省が定めた各施設の「指針」および「運営ハンドブック」						
課題・試験等のフィードバック	実習中の巡回指導及び実習後に個別面談を行う。						
予習・復習の内容と時間	実習先についてよく調べ(役割・機能・子どもや利用者のニーズ等)、保育技術の修得に努める。						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	保育実習指導Ⅲの受講を必修とする。						
オフィスアワー等	実習用携帯電話で対応を行う(7:00～19:00)						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-3	保育実習指導Ⅰ	西原弘 金谷有希子	2	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	1年次の実習を振り返り、自らの学びを整理する。実習中の自己の活動や記録を元に省察を行い、保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて新たな学習課題を明確にする。実習の成果や反省を踏まえ、新たな課題を見出し、保育観を育成するための足掛かりとする。 『オムニバス方式』【実習事後指導、保育所実習、施設実習】						
実務経験と教授内容	児童相談所勤務経験を有する教員(西原)が、施設実習について、現場の実践事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	プレゼンテーション		
関連するDP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	知識・理解	子ども・利用者を多面的に理解することができる					
○	知識・理解	子ども・利用者に誠実、公平かつ責任感を持って関わる姿勢ができる。					
△	思考・判断	子ども・利用者を理解し、一人ひとりを大切にしたい保育を実践する。					
△	技能・表現	子ども・利用者の自主性を重視し、保育計画・支援計画を立案し実践に役立てる。					
回	授業のテーマ及び内容						各回 100分
1	実習体験の振り返り(1)(西原・金谷) ～自己評価、課題の達成評価、各自の学びを省察～			8	実習体験の振り返り(8)(西原・金谷) ～児童養護施設実習生の学びの発表～		
2	実習体験の振り返り(2)(西原・金谷) ～各自の学びを共有する(グループワーク)			9	実習体験の振り返り(9)(西原・金谷) ～医療型・福祉型障害児入所施設実習生の学びの発表～		
3	実習体験の振り返り(3)(西原・金谷) ～民間保育所(和歌山市内)実習生の学びの発表～			10	実習体験の振り返り(10)(西原・金谷) ～児童発達支援センター実習生の学びの発表～		
4	実習体験の振り返り(4)(西原・金谷) ～民間保育所実習生の学びの発表～			11	実習体験の振り返り(11)(西原・金谷) ～障害者支援施設実習生の学びの発表～		
5	実習体験の振り返り(5)(西原・金谷) ～公立保育所(和歌山市内)実習生の学びの発表～			12	実習体験の振り返り(12)(西原・金谷) ～指定障害者福祉サービス事業所実習生の学びの発表～		
6	実習体験の振り返り(6)(西原・金谷) ～公立保育所実習生の学びの発表～			13	保育者としての将来像と職業倫理(西原・金谷)		
7	実習体験の振り返り(7)(西原・金谷) ～認定こども園実習生の学びの発表～			14	まとめと振り返り(西原・金谷) 授業全体を振り返り、学修したことを文章にまとめる		
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	知識・理解	子ども・利用者を理解し、状況に応じて適切な対応ができたか				40%
		技能・表現	適切な文章表現を用いて、レポートを作成しているか (発表において)				10%
	そ の 他	知識・理解	子ども・利用者に誠実、公平かつ責任感を持って関わる事ができたか				30%
思考・判断		子ども・利用者の最善の利益を考え、一人ひとりに応じた保育ができたか				10%	
平 常 点	知識・理解	子ども・利用者のニーズがわかり、必要な知識や技術について積極的に学ぼうとしているか				10%	
教 科 書	太田光洋編著「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド[第3版]」ミネルヴァ書房、相馬和子・中田カヨ子編「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方(第2版)」萌文書林、本学規程の実習記録ファイル						
参 考 書	専門教育科目の各テキスト						
課題・試験等のフィードバック	・課題は次の授業で返却し、記載内容について感想や気づいた点について触れる。 ・実習体験発表終了後、授業の終わりに講評を行う。						
予習・復習の内容と時間	各講義終了後、学習内容を復習する(90分)とともに、次の講義への準備を行うこと。(関連する専門教育教科の振り返り60分、次時の発表施設の特徴、用語の意味をまとめる90分)						
免許・資格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを受けるための必修科目である。						
オフィスアワー等	放課後 及び 事前に予約した日時						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-4	保育実習指導Ⅱ	金谷有希子	1	演習	保育	通年 (前期)	選択
授業の概要と キーワード	保育所実習の事前事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。実習後、実習体験の発表、担当教員との個別面談指導を行い、実習の総括としてレポートを作成する。授業の時期や内容については、状況に応じて柔軟に対応する。 【事前事後指導、教材研究、保育技術】						
実務経験と 教授内容	該当なし			アクティブラーニング	プレゼンテーション		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	子どもの自主性を重視した保育を立案、研究に意欲的に取り組み、実践力を身につける。						
○ 知識・理解	子ども理解を深め、子ども一人ひとりの状況に応じた適切な対応ができる。						
△ 思考・判断	保育者としての使命感・責任感を持って、子ども一人ひとりを大切に保育が展開できる。						
△ 知識・理解	真の愛情で子どもを受けとめ、平等に関わる姿勢ができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 50分					
1	保育実習Ⅱの理解 実習Ⅱの意義・目的・内容	8	オリエンテーションの準備Ⅰ オリエンテーションに向けた手続き				
2	実習参加の留意事項 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	9	オリエンテーションの準備Ⅱ オリエンテーションに向けた準備				
3	実習の課題 自己の課題の明確化	10	保育の表現技術を生かした実践Ⅰ 作成した指導案をもとに模擬保育(乳児クラス)				
4	0・1歳児の保育	11	保育の表現技術を生かした実践Ⅱ 作成した指導案をもとに模擬保育(幼児クラス)				
5	2・3歳児の保育	12	養護技術・保育技術の実践Ⅰ 抱き方、授乳				
6	指導計画案の作成Ⅰ 指導案作成のための基本的知識(部分実習)	13	養護技術・保育技術の実践Ⅱ オムツ交換				
7	指導計画案の作成Ⅱ 指導案作成のための基本的知識(半日・全日実習)	14	実習直前ガイダンス 実習生としての意識とマナーの確認				

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-4	保育実習指導Ⅱ	金谷有希子	1	演習	保育	通年 (後期)	選択
回	授業のテーマ及び内容	各回 50分					
15	実習体験の振り返り 自己評価、課題の達成評価、各自の学びを省察	22	実習体験の報告Ⅶ:実習体験の発表まとめ				
16	実習体験の報告Ⅰ 民間保育所(和歌山市内)で学んだこと実習体験の発表による学びの共有	23	個別面接指導、実習総括レポート作成Ⅰ 担当教員との面接、二年間の実習を振り返りあらゆる視点から実習を分析～指導保育者からの学び～				
17	実習体験の報告Ⅱ 民間保育所で学んだこと実習体験の発表による学びの共有	24	個別面接指導、実習総括レポート作成Ⅱ 担当教員との面接、二年間の実習を振り返りあらゆる視点から実習を分析～子どもと関わる中での学び～				
18	実習体験の報告Ⅲ 公立保育所(和歌山市内)で学んだこと実習体験の発表による学びの共有	25	個別面接指導、実習総括レポート作成Ⅲ 担当教員との面接、二年間の実習を振り返りあらゆる視点から実習を分析～実習記録の内容から～				
19	実習体験の報告Ⅳ 公立保育所で学んだこと実習体験の発表による学びの共有	26	個別面接指導、実習総括レポート作成Ⅳ 担当教員との面接、今後の課題レポート作成				
20	実習体験の報告Ⅴ 認定こども園(和歌山市内)で学んだこと実習体験の発表による学びの共有	27	個別面接指導、実習総括レポート作成Ⅴ 担当教員との面接、今後の課題レポート提出				
21	実習体験の報告Ⅵ 認定こども園で学んだこと実習体験の発表による学びの共有	28	まとめ・課題の明確化 学びの確認				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	そ の 他	技能・表現 思考・判断	(発表において) 子どもの自主性を重視した保育を实践できたか 子ども一人ひとりを大切にされた保育が展開できたか				30% 10%
	課 題	知識・理解	実習体験やこれまでの学習及び知識を用い、レポートを作成できたか 子どもの思いを受け止め平等に関わる姿勢が身についているか				10% 10%
	小 テ ス ト	知識・理解	保育に関する専門的知識を理解しているか				20%
	平 常 点	技能・表現	保育計画の立案や教材研究に意欲的に取り組むことができたか				20%
教 科 書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド<第3版>」 太田光洋 編著 ミネルヴァ書房 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」 フレーベル館 本学規定の実習記録ファイル						
参 考 書	「幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方」 久富陽子 編 萌文書林						
課題・試験等のフィードバック	課題にはコメントをつけて返却する。						
予習・復習の内容と時間	予習:(前期)責任実習に向け準備を行う 60分 (後期)実習体験を振り返り、発表やレポート作成に向けまとめておく 60分 復習:授業内容を整理しておく 60分						
免許・資格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受講要件等	保育実習Ⅱを受講するための必須科目である。						
オフィスアワー等	授業終了後、昼休憩、放課後 研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-4	保育実習指導Ⅲ	西原弘	1	演習	保育	通年 (前期)	選択
授業の概要と キーワード	「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅲ」の事前事後指導を行う。事前指導では、保育実習Ⅰ(施設)の体験発表、担当教員との個別面談指導を行い、新たな課題を発見し、実習の意義や目的を確認する。事後指導では、個々の実習ノート、部分指導案を基に保育を振り返る。実習の総括としてレポートを作成し、保育をめぐるの自己の課題を明確にし、保育に対する認識を新たにする。 【実習事前指導、施設実習、児童福祉施設】						
実務経験と 教授内容	児童相談所勤務経験を有する教員が、現場の実践事例を織り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	プレゼンテーション		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP3】専門的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	技能・表現	子ども・利用者の心に寄り添う共感力を背景に、自主性を重視した支援を展開できる。					
○	知識・理解	子ども・利用者への理解を深め、特性と状況に応じた対応ができる。					
△	知識・理解	子ども・利用者に対して、愛情に基づく公平な捉え方ができる。					
△	思考・判断	子ども・利用者ひとり一人のニーズを把握し、個性を大切に支援を実践できる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 50分			
1	実習体験の発表(1) 保育実習Ⅰ(施設)の体験発表による知識の共有			8	実習施設と子ども、利用者の理解(4) 実習施設の子どもや利用者への支援(認知面)		
2	実習体験の発表(2) 保育実習Ⅰ(施設)の体験発表による知識の共有			9	実習施設と子ども、利用者の理解(5) 実習施設の子どもや利用者への支援(ソーシャルスキル)		
3	実習中の留意事項 子ども・利用者の最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務			10	指導計画案の作成 指導案作成のための基本的知識		
4	実習中の課題 実習における課題の明確化と文章化			11	オリエンテーションの準備 実習施設オリエンテーションに向けた手続き、準備及び確認		
5	実習施設と子ども、利用者の理解(1) 実習施設の子どもや利用者とその生活			12	保育の表現技術を活かした実践(1) 実習施設中の実践の検討(個別の支援)		
6	実習施設と子ども、利用者の理解(2) 実習施設の子どもや利用者への支援(行動面)			13	保育の表現技術を活かした実践(2) 実習施設中の実践の検討(集団活動)		
7	実習施設と子ども、利用者の理解(3) 実習施設の子どもや利用者への支援(感情コントロール)			14	実習直前ガイダンス 実習に際しての留意事項、所持品の確認		

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
WPR-5-M-4	保育実習指導Ⅲ	西原弘	1	演習	保育	通年 (後期)	選択
回	授業のテーマ及び内容	各回 50分					
15	実習体験の報告(1) 和歌山県内の児童福祉施設(児童養護施設を中心に)で学んだ実習体験による学びの共有	22	個別面接指導、実習総括レポート作成(1) 担当教員との面接、今後の課題(理論的側面)レポート				
16	実習体験の報告(2) 和歌山県内の児童福祉施設(児童養護施設を中心に)で学んだ実習体験による学びの共有	23	個別面接指導、実習総括レポート作成(2) 担当教員との面接、今後の課題(理論的側面)レポート				
17	実習体験の報告(3) 和歌山県内の児童福祉施設(児童発達支援センターを中心に)で学んだ実習体験による学びの共有	24	個別面接指導、実習総括レポート作成(3) 担当教員との面接、今後の課題(理論的側面)レポート				
18	実習体験の報告(4) 和歌山県内の児童福祉施設(障害児入所施設を中心に)で学んだ実習体験による学びの共有	25	個別面接指導、実習総括レポート作成(4) 担当教員との面接、今後の課題(実践的側面)レポート				
19	実習体験の報告(5) 和歌山県内の障害者支援施設で学んだ実習体験による学びの共有	26	個別面接指導、実習総括レポート作成(5) 担当教員との面接、今後の課題(実践的側面)レポート				
20	実習についての全体的討議(1) 理論的側面の検討	27	個別面接指導、実習総括レポート作成(6) 担当教員との面接、今後の課題(実践的側面)レポート				
21	実習についての全体的討議(2) 実践的側面の検討	28	まとめ・課題の明確化 これまでの学びの確認				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	そ の 他	技能・表現 思考・判断	(発表において) 子ども・利用者の自主性を重視した保育を実践できたか 子ども・利用者一人ひとりを大切にされた保育が展開できたか				30% 10%
	課 題	知識・理解	実習体験やこれまでの学習や知識を用い、レポートを作成できたか 子ども・利用者の思いを受け止め平等に関わる姿勢が身についているか				10% 10%
	小 テ ス ト	知識・理解	施設保育に関する専門的知識を理解しているか				20%
	平 常 点	技能・表現	支援計画の立案や教材研究に意欲的に取り組むことができたか				20%
教 科 書	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド[第3版]」太田光洋編著 ミネルヴァ書房、 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方(第2版)」相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林、 本学規程の実習記録ファイル						
参 考 書	専門教育科目の各テキスト						
課題・試験等の フィードバック	・課題は次の授業で返却し、記載内容について感想や気づいた点について触れる。 ・実習体験発表終了後、授業の終わりに講評を行う。						
予習・復習の 内容と時間	予習:(前期)責任実習に向け準備を行う 60分 (後期)実習体験を振り返り、発表やレポート作成に向けまとめておく 60分 復習:授業内容を整理しておく 60分						
免 許 ・ 資 格	保育士資格選択必修科目、認定ベビーシッター資格選択必修科目						
受 講 要 件 等	保育実習Ⅲを受けるための必修科目である。						
オフィスアワー等	毎週火・金曜日の放課後 及び 事前に予約した日時						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
IEC-5-M-4	保育・教職実践演習(幼稚園)	小笠原真弓 渡辺直人	2	演習	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	<p>保育者に必要な①使命感、責任感、教育的愛情、②子ども理解やクラス経営、③保育内容の指導力、④社会性や対人関係能力といった4つの資質と能力を確認し、高めるための内容を取り上げる。実技の演習、模擬保育、意見交流等を取り入れ、互いに研鑽し合う。模擬保育に関しては、本演習担当教員に加えて、教科担当教員の指導助言も踏まえ、計画、実践を行う。</p> <p>『複数教員担当方式』【子ども理解、保育の専門性、模擬保育】</p>						
実務経験と教授内容	第14回は現職保育者を講師に招き、和歌山の保育現場の現状を講義する。			アクティブラーニング	模擬保育		
				地域の学修	○		
関連するDP	【DP4】統合的な学習経験と創造的な思考力						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 思考・判断	理論と実践を背景に問題解決に向けて積極的に取り組むことができる。						
○ 知識・理解	子ども・保護者に対して公平な態度を示すことができる。						
△ 技能・表現	模擬保育の計画・準備・実践・振り返りに積極的に取り組むことができる。						
△ 技能・表現	専門性と多様な表現力で子どもや保護者の心に寄り添うことができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 200分			
1	オリエンテーション(科目の目標、評価方法と履修カルテに基づいた自己課題の確認)			8	模擬保育Ⅰ(保育者役・子ども役・助言者と役割を分担し模擬保育を実践する) 歌唱指導		
2	使命感、責任感、教育的愛情について			9	模擬保育Ⅱ(保育者役・子ども役・助言者と役割を分担し模擬保育を実践する) 楽器遊び		
3	保育内容の指導力について			10	模擬保育Ⅲ(保育者役・子ども役・助言者と役割を分担し模擬保育を実践する) 運動遊び		
4	社会性と対人関係能力について			11	模擬保育Ⅳ(保育者役・子ども役・助言者と役割を分担し模擬保育を実践する) ゲーム遊び		
5	音楽表現Ⅰ コードネームによる伴奏			12	模擬保育Ⅴ(保育者役・子ども役・助言者と役割を分担し模擬保育を実践する) リズム遊び		
6	音楽表現Ⅱ いろいろな伴奏を学ぶ			13	模擬保育の振り返り		
7	模擬保育の準備:指導計画案を作成、教材の準備、事前リハーサルを行う			14	和歌山の保育現場が求める保育者像と社会人としての自覚・まとめ(外部講師)		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	その他	思考・判断	倫理的思考を基に立案、課題解決に向けて適切な対応・判断ができるか 模擬保育を通して評価する。				60%
	課題	知識・理解	課題に対して学んだ知識を基にレポートにまとめることができるか				20%
		技能・表現	模擬保育を体験することによって、保育の指導力が身についたか				10%
平常点	技能・表現	積極的に学ぼうとする態度が身についているか				10%	
教科書	「保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領」フレーベル館、必要に応じて資料を配付、実習記録や実習に用いたファイル						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	課題は次回の授業でコメントをつけて返却する。						
予習・復習の内容と時間	予習:次回の授業のテーマを理解し、情報収集をしておく。120分 復習:本時の授業や活動内容を振り返り整理しておく。120分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目、保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	昼休憩時間および放課後、研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
IEC-5-M-4	卒業研究Ⅱ	保育科 全教員	1	卒研	保育	通年 (前期)	必修
授業の概要と キーワード	和歌山地域における保育・教育の課題を各自の観点から捉え、その課題解決に向けて研究主題を決め、学術研究に取り組む。仲間と協働しながら研究発表を行い、学術的な内容と形式を備えた卒業論文を作成する。なお、本科目は卒業研究の所属先が決定した後、研究室単位で行うものである。 『クラス分け方式』【学術研究、課題解決、研究発表、卒業論文】						
実務経験と 教授内容	特になし			アクティブラーニング	プレゼンテーション		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP4】統合的な学習経験と創造的思考力						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	思考・判断	学修経験を統合し、新たな課題解決に役立てることができる。					
○	思考・判断	課題に知的好奇心を持って取り組み、探求する態度が身についている。					
△	態度・志向	研究成果をまとめて創作発表や研究発表する能力が身についている。					
△	態度・志向	積極的かつ計画性を持って仲間と協働し、研究課題に取り組むことができる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	オリエンテーション 科目のねらいや学修内容・評価方法について確認する。			8	ゼミごとの研究(6) 研究主題・研究方法についての検討		
2	ゼミ選択及び各ゼミにおけるガイダンス 所属するゼミを決定し、各ゼミでのガイダンスを受ける			9	ゼミごとの研究(7) 研究主題に対する調査方法の検討		
3	ゼミごとの研究(1) ゼミにおける研究主題の検討			10	ゼミごとの研究(8) アンケートの作成		
4	ゼミごとの研究(2) 資料収集や論文作法など、学術研究の基本を確認する。			11	ゼミごとの研究(9) 文献・資料の検討		
5	ゼミごとの研究(3) 研究主題に対する資料収集(図書館の活用)			12	ゼミごとの研究(10) フィールドワーク・製作等		
6	ゼミごとの研究(4) 研究主題に対する資料収集(インターネットの活用)			13	ゼミごとの研究(11) フィールドワーク・製作等		
7	ゼミごとの研究(5) 参考文献・研究材料等の収集			14	ゼミごとの研究(12) 研究主題に関する調査研究～子ども～		

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
IEC-5-M-4	卒業研究Ⅱ	保育科 全教員	1	卒研	保育	通年 (後期)	必修
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容	各回 100 分					
15	ゼミごとの研究(13) 研究主題に関する調査研究～保護者～	22	卒業研究発表会の準備(2) 発表内容の検討～展開の検討～				
16	ゼミごとの研究(14) 研究主題に関する調査研究～教材～	23	卒業研究発表会の準備(3) 発表内容の検討～まとめの検討～				
17	ゼミごとの研究(15) 研究主題に関する調査研究～環境～	24	卒業研究発表会の準備(4) 発表内容の完成				
18	ゼミごとの研究(16) 研究結果の考察～仮説との比較～	25	卒業研究発表会の準備(5) 研究発表会リハーサル				
19	ゼミごとの研究(17) 研究結果の考察～結果から導かれるもの～	26	卒業研究発表会(1) 1年間の研究テーマを発表する				
20	ゼミごとの研究(18) 研究結果のまとめ	27	卒業研究発表会(2) 1年間の研究テーマを発表する				
21	卒業研究発表会の準備(1) 発表内容の検討～導入の検討～	28	ゼミごとの研究～まとめ～ 卒業論文を仕上げる				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	思考・判断 態度・志向	保育課題に対し研究を深め、新たな課題解決に役立てることができたか 計画性を持って課題研究に取り組むことができたか				30% 10%
	そ の 他	思考・判断	研究成果をまとめて創作発表や研究発表をする能力が身についたか				30%
	平 常 点	思考・判断 態度・志向	課題に対して知的好奇心を持って取り組み、探求する態度が身についたか 積極的な態度で仲間と協働し、課題研究に取り組むことができたか				20% 10%
教 科 書	各ゼミで担当教員が提示する。						
参 考 書	「スタートアップセミナー 学修マニュアル なせば成る！(三訂版)」山形大学出版会、 各ゼミで担当教員が提示するもの。						
課題・試験等の フィードバック	各ゼミにて対応する。						
予習・復習の 内容と時間	各ゼミで担当教員が提示する。 予習内容:各ゼミで提示される課題に取り組む(60分) 復習内容:各ゼミで指摘された問題点を改善できるように復習する(60分)						
免 許 ・ 資 格	特になし						
受 講 要 件 等	特になし						
オフィスアワー等	担当教員にあらかじめ訪問の予約を取ること。						